

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24617018

研究課題名(和文)北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A Basic Study of the Modernization of Buddhism : The case of the Shin Sect in North Kyusyu

研究代表者

川邊 雄大(KAWABE, Yutai)

二松學舎大學・文学部・その他

研究者番号：10468720

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は明治期の仏教教団とりわけ東西本願寺による布教活動等に表れる対外的活動と、それと相即の関係にあった宗教内部の革新の両面に着目し、宗教や教学が新時代に対応し再編された日本近代化の過程を、広く文化学の見地から捉え直そうとするものである。具体的には、北九州における東西本願寺に地域と宗派を限定して、その特徴と意義について、特に下記の視点から考察を加えた。

北九州の真宗が持つ地理的・歴史的・政治的な特徴、真宗学寮と漢学塾の関係に着目した、仏教と漢学の関係、幕末維新期の排耶論に着目した仏教近代化の過程、海外布教活動が文化交流と仏教近代化に果たした意義。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we examined the modernization of Buddhism, focusing on the following aspects ;

(1)Geographical, historical, and political characteristics of the Shin sect in north Kyushu(Fukuoka, Oita, Saga, Nagasaki, and Kumamoto).(2) Chinese learning(Kangaku), with a focus on relations between Shin seminaries and private academies of Kangaku.(3)The anti-Christian polemics of the bakumatsu and Restoration period.(4)The significance of overseas missionary activities in cultural exchange and the modernization of Buddhism.

研究分野：近代日中文化交流史

キーワード：文化学 仏教近代化 北九州(九州北部) 真宗 咸宜園 海外布教 漢学 真宗法難事件

1. 研究開始当初の背景

幕末明治期の仏教教団とくに東西本願寺は、近代化促進のために、さまざまな取り組みを行っている。

明治維新にともなって寺務改革・海外視察が開始され、東アジアを重点地域として展開された海外布教活動は、その顕著な例である。

明治期の東西本願寺の寺務改革・海外視察・海外布教に関する研究、幕末維新期のキリスト教と東西本願寺との関わりに関する研究は古くからおこなわれてきた。一方、豊後日田に広瀬淡窓によって設立された漢学塾咸宜園には、幕末期に多くの真宗僧が学んでいるが、これについては教育史学の方面からの研究蓄積がある。

しかしながら、これらの先行研究は、教団史料、布教僧個人史料、公文書を十分に照会した成果とは言えない面がある。

また、開国のなかで仏教・漢学・キリスト教が相互にどのように関係しあい再編されたかといった問題や、学寮や私塾で形成された人脈が教団の近代化にいかなる役割を果たしたかという問題については、十分検討されていない。

これまで、申請者および共同研究者は、浄土真宗およびキリスト教関係の研究を行ってきた。その結果、海外布教に至る経緯や布教活動の諸問題が、宗教・思想等の人文科学の領域だけでなく、政治・法律・外交等といった社会科学の分野と関わることが明らかになった。

今回の申請では、東アジア地域の海外布教に中心的な役割を果たした北九州地方の真宗と真宗僧侶に特化して、明治期の仏教教団による布教活動等に表れる対外的活動と、それと相即の関係にあった宗教内部の革新を具体的に明らかにすることとした。その際に、人文学・社会学を含めた広い見地から日本仏教近代化の過程を捉え直し、日本近代化の過程に関する事例研究を提供することを企図した。

2. 研究の目的

上記の先行研究の成果と問題点に鑑み、本研究は明治期の仏教教団とりわけ東西本願寺による布教活動等に表れる対外的活動と、それと相即の関係にあった宗教内部の革新の両面に着目し、宗教や教学が新時代に対応し再編された日本近代化の過程を、広く文化学の見地から捉え直そうとするものである。

具体的には、北九州における東西本願寺に地域と宗派を限定して、その特徴と意義について、特に下記の視点から考察を加えた。

北九州の真宗が持つ地理的・歴史的・政治的な特徴について。
真宗学寮と漢学塾の関係に着目した、仏教と漢学の関係について。

幕末維新期の排耶論に着目した、仏教近代化の過程について。

海外布教活動が文化交流と仏教近代化に果たした意義について

3. 研究の方法

本研究では、上記の4項目を各担当者が分担して重点的に研究を進めたほか、九州をはじめとする日本国内各地、さらには海外での資料調査を実施した。

また、研究会を実施(平成24年度:5回、25年度:4回、26年度:2回)し、各員の進捗状況を確認するだけでなく、情報共有を行うとともに、有志で収集した資料・小栗憲一「琉球日記」の読み合わせを行い、成果として翻刻した(川邊雄大・町泉寿郎「善教寺蔵・小栗憲一「琉球日記」について」、『東アジア学術総合研究所集刊』第45集、2015年3月)。

なお、平成24年度には淡窓研究会と、平成25年度には科研費助成・基盤(B)「近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究」(研究代表者:町泉寿郎・二松学舎大学教授)と共同で研究会を開催した。

このほか、平成25年10月5日には、国際シンポジウム「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」(於京都市・伝道院)を、科研費補助金基盤研究(C)「大谷光瑞とアジア その開教土壌の歴史的考察」(研究代表者:新潟大学 柴田幹夫)らとともに開催し、研究成果を発表するとともに、国内外の研究者との交流を進めた。

4. 研究成果

本研究で得られた成果は、各員が著書・論文・学会発表等で公表した。

これらの成果の中から主要な論文・翻刻等を集め、平成27年3月に研究成果報告書を刊行した。

本書は、論文12本・翻刻4本のほか、本科研期間中の調査記録・研究会記録・研究成果一覧を収録し、各関係機関に送付した。以下、目次を掲げる。

まえがき 川邊雄大

第一部 論文篇

第一章 北九州の真宗が持つ地理的・歴史的・政治的特徴

1 川邊雄大「西本願寺の海外布教と鎮西別院」

2 町泉寿郎「第一次宗教法案と東本願寺唐津高德寺資料の紹介」

第二章 真宗学寮と漢学塾の関係に着目した、仏教と漢学の関係

1 西江錦史郎「咸宜園経世学と月性の西本願寺時務論」

2 溝田直己「廣瀬旭荘の堺開塾について 堺開塾に至る経緯と門下生のネット

ワークについて」

3 高山秀嗣「学寮と布教 北九州の浄土真宗本願寺派を中心として」

4 川邊雄大「幕末明治期の真宗僧と漢学咸宜園から東京帝国大学へ」

第三章 幕末維新期の排耶論に着目した、仏教近代化の過程

1 中村聡「19世紀中国における改革論の段階的变化と在華宣教師」

2 中村聡「福澤諭吉と排耶蘇教問題」

3 中村聡「最後期の排耶書「防邪訓」の意味するもの」

第四章 海外布教活動が文化交流と仏教近代化に果たした意義

1 川邊雄大「明治期の琉球における真宗法難事件に関する一考察 善教寺資料を中心に」

2 川邊雄大「明治期における東本願寺の清国布教について 松本白華・北方心泉を中心に」

3 川邊雄大「『東瀛詩選』編纂に関する一考察 明治漢詩壇と日中関係との関わりを中心に」

第二部 資料篇

1 川邊雄大・町泉寿郎〔資料紹介〕「善教寺蔵・小栗憲一「琉球日記」について」

2 川邊雄大〔研究ノート〕「善教寺蔵・田原法水略歴」および「田原法水紀功碑」（草稿）について」

3 川邊雄大〔研究ノート〕「善教寺蔵・小栗憲一「琉球出張 対辨筆記 秘密実録」について」

4 川邊雄大〔翻刻〕『朝野新聞』・『読売新聞』真宗法難事件関連記事

5 新聞報道

執筆者一覧

本科研では、当初から咸宜園門下生の中に真宗僧が多かったという点に着目したこともあり、月性・松嶋善讓（以上、西本願寺）、奥村円心・小栗憲一・小栗栖香頂・田原法水・松本白華（以上、東本願寺）など、咸宜園およびその学統を汲む真宗僧について、現地調査によって得られた資料などをもとに検討することができた。

その結果、咸宜園と真宗との関わりや、咸宜園出身の真宗僧に関する論考が多くなった。

明治初期に琉球で発生した真宗法難事件について、善教寺に所蔵する前出の関係資料を用いて、咸宜園出身の真宗僧である田原法水および小栗憲一を中心に検討することとなった。そして、関係資料の翻刻を行ったことにより、従来必ずしも全体像が明らかでなかった同事件についても、明らかにすることができた。

また、従来は見落とされがちだった、堺および大阪に開設された旭荘塾（堺咸宜園・大阪咸宜園）や、維新後東京で咸宜園出身者た

ちによって結成された玉川吟社について検討できた点も成果の一つであると考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 19 件）

川邊 雄大、日本僧侶眼中的幕末維新時期之基督教（中国語）、西學東漸與近代知識的形成和交流、査読無、2012、pp.435-450

川邊 雄大、大谷光瑞と中国布教、アジア遊学、査読無、156号、2012、pp.9-19

川邊 雄大、北方心泉の北派書風受容について(1)、書論、査読無、38号、2012、pp.224-159

中村 聡、『博物新編』と科学教育、東洋研究、査読無、183号、2012、pp.1-20

中村 聡、福澤諭吉と排耶蘇教問題、東洋研究、査読無、186号、2012、pp.27-45

中村 聡、『博物新編』に見る日本の近代科学教育 第一集地気論をめくって、東洋大学中国哲学文学科紀要、査読無、21号、2012、pp.318-305

川邊 雄大、明治期東本願寺の布教活動 琉球・清国・朝鮮を例として、石田肇教授退休記念論集金壺集、査読無、2013、pp.251-263

川邊 雄大、『東瀛詩選』編纂に関する一考察 明治漢詩壇と日中関係との関わりを中心に、日本漢文学研究、査読有、8号、2013、pp41-58、

<http://www.nishogakusha-kanbun.net/08kanbun-03kawabe.pdf>

川邊 雄大、明治期における東本願寺の清国布教について 松本白華・北方心泉を中心に、咸宜園教育研究センター研究紀要、査読無、2号、2013、pp.1-36

川邊 雄大、日本近代美術史に関する一考察 彭修銀『日本近現代絵画史』を媒介として、相互探究としての国際日本学研究 日中韓文化関係の諸相、査読無、国際日本学研究叢書 18、2013、pp.91-97

川邊 雄大、北方心泉の北派書風受容について(2)、書論、査読無、39号、2013、pp.177-196

川邊 雄大、東本願寺上海別院的出版活動（中国語）、中華書局與中國近代文化、査読無、2013、pp.553-563

町 泉寿郎、第一次宗教法案と東本願寺 唐津高德寺資料の紹介、二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊、査読無、43集、2013、pp.71-97

高山 秀嗣、日本仏教における講の展開 浄土真宗の事例を中心に、「講」研究の可能性、査読無、2014、pp80-104

川邊 雄大、北方心泉の北派書風受容について(3)、書論、査読無、40号、2014、pp213-220

川邊 雄大、明治期の琉球における真宗法難事件に関する一考察 善教寺資料を中心に、沖縄文化研究、査読有、41号、2015、pp.151-193、
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/9943>

〔学会発表〕(計25件)

川邊 雄大、明治期東本願寺の海外布教 琉球・清国・朝鮮を一例として、第4回東アジア文化交渉学会年次大会、韓国・ソウル市・高麗大学校、2014.5.12

西江 錦史郎、弘化三年以降の廣瀬旭荘、淡窓研究会(科研費と共催)、於東京・謙堂文庫、2012.6.1

川邊 雄大、東本願寺上海別院の出版活動(中国語)、第5届出版史國際學術2012.7.1

町 泉寿郎、松本白華と小栗布岳、科研費第3回研究会、於大分県日田市・長福寺、2012.8.24

高山 秀嗣、学寮と布教、科研費第4回研究会、於東京・北里研究所、2013.1.5

川邊 雄大、明治期東本願寺の布教活動と内務省・大久保利通、第5回東アジア文化交渉学会年次大会、於香港・香港城市大学、2013.5.11

川邊 雄大、東西本願寺和故宮、北京(中国語)故宮博物院・故宮學研究所「宮廷典籍與東亞文化交流國際學術研討會」、於北京・故宮博物院、平成二十五年七月十三日。

川邊 雄大、琉球における真宗法難事件に関する一考察 善教寺蔵「対弁録」を中心として、「東アジアにおける筆談の研究」國際シンポジウム、於中国・杭州市・華北飯店、2013.9.14

川邊 雄大、明治期日本人僧侶の見た杭州・西湖 北方心泉を例として、「西湖のイメージ:東アジア名勝の誕生・流伝・移動」國際シンポジウム、於中国・杭州市・華北飯店、2013.9.15

川邊 雄大、大谷光瑞と鎮西別院、國際シンポジウム広域アジアにおける大谷光瑞の活動、於京都市・西本願寺伝道院、2013.10.5

川邊 雄大、近代における漢学と僧侶 東京帝国大学文科大学に学んだ真宗僧を中心として、十九世紀東亞思想文化與漢學研討會、於台湾・新竹市・国立清華大学、2014.2.24

町 泉寿郎、明治期の東谷派の活動と小栗布岳、小栗布岳百回忌記念法要、於大分県佐伯市・善教寺、2014.5.3

川邊 雄大、幕末明治期の真宗僧と漢学 咸宜園から東京帝国大学へ、第6回東アジア文化交渉学会年次大会、於中

国・上海・復旦大学、2014.5.8

町 泉寿郎、明治32年1899の東本願寺の動向からみる政治と宗教と教育、第6回東アジア文化交渉学会年次大会、於中国・上海・復旦大学、2014.5.8

中村 聡、和刻本『博物新編』の謎について、日本漢詩文学会第4回例会、於東京・国立女子大学、2014.6.13

川邊 雄大、大谷光瑞の対外政策を支えた人物たち 中尾万三ほか、二松学舎大学東アジア學術総合研究所日本漢文教育研究推進室・平成26年度國際シンポジウム川邊、雄大、「戦間期の東アジアと漢学」、於岡山県・井原市・興讓館高等学校、2015.2.20

中村 聡、漢訳西洋科学書の伝来と日本の科学教育、白山中国学会、於東京・東洋大学、2015.3.21

〔図書〕(計3件)

川邊 雄大、東本願寺中国布教の研究、研文出版、2013、405p

中村 聡、宣教師たちの東アジア 日本と中国の近代化とプロテスタント伝道書、勉誠出版、2015、320p

川邊 雄大、北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究(研究成果報告書)、2015、485p

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川邊 雄大(KAWABE, Yutai)

二松学舎大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：10468720

(2)研究分担者

高山 秀嗣 (TAKATAMA, Hidetsugu)
二松学舎大学・文学部・客員研究員
研究者番号：30445978

町 泉寿郎 (MACHI, Senjuro)
二松学舎大学・文学部・教授
研究者番号：40301733

中村 聡 (NAKAMURA, Satoshi)
玉川大学・リベラルアーツ学部・教授
研究者番号：80352722

(3)連携研究者：なし

(4)研究協力者

西江 錦史郎 (NISHIE Kinshiro)
国土館大学・政経学部・名誉教授

廣瀬 貞雄 (HIROSE Sadao)
公益財団法人廣瀬資料館・理事長